

《担当者名》 児玉壮志 kodamas@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

精神疾患や精神障害領域の各疾患に応じた作業療法評価法を習得する。

本科目では情報収集や面接、観察の方法、精神症状、社会機能、認知機能などの評価法を学修する。

【学修目標】

<一般目標>

精神障害領域における評価、およびその具体的方法について理解する。

<行動目標>

1. 情報収集、面接、観察、作業遂行について説明し、実施することができる。
2. 量的な評価法について説明し、実施することができる。
3. 集団の評価法について説明し、実施することができる。
4. 一連の評価の流れを理解し、必要な評価項目を列挙し、実施することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション、総論	精神障害領域における評価の特徴や注意点について理解する。	児玉壮志
2	情報収集	情報収集とは何かを理解する。 情報収集の方法や種類について説明することができる。	児玉壮志
3	観察	観察とは何かを理解する。 観察の目的や観察で得られる情報、観察者としての技術・態度について説明することができる。	児玉壮志
4	面接	面接とは何かを理解する。 面接の目的や面接で得られる情報、面接者としての技術・態度について説明することができる。	児玉壮志
5	作業面接	作業面接とは何かを理解する。 作業面接の目的や作業面接で得られる情報、治療者としての技術・態度について説明することができる。	児玉壮志
6	社会機能	各種検査法の対象および目的や内容を理解する。 各種検査法を安全に実施することができる。	児玉壮志
7	陽性症状、陰性症状	各種検査法の対象および目的や内容を理解する。 各種検査法を安全に実施することができる。	児玉壮志
8	気分、不安	各種検査法の対象および目的や内容を理解する。 各種検査法を安全に実施することができる。	児玉壮志
9	認知機能	各種検査法の対象および目的や内容を理解する。 各種検査法を安全に実施することができる。	児玉壮志
10	認知機能	各種検査法の対象および目的や内容を理解する。 各種検査法を安全に実施することができる。	児玉壮志
11	QOL、リハビリ、病識	各種検査法の対象および目的や内容を理解する。 各種検査法を安全に実施することができる。	児玉壮志
12	認知症の評価	認知症に対する各種評価法を理解する。	児玉壮志
13	集団	集団とは何かを理解する。 集団を評価することの目的やこれから得られる情報、治療者としての技術・態度について説明することができる。	児玉壮志
14	評価の統合と解釈	評価の統合と解釈とは何かを理解する。 評価の統合と解釈の目的や方法について理解した上で、焦点化することができる。	児玉壮志
15	まとめ	全講義を振り返り、まとめることができる。	児玉壮志

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験 70%

ノート作成 30%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【教科書】

岩崎テル子 他 編 「作業療法評価学（第3版）」 医学書院 2017年

山根寛 「精神障害と作業療法（新版）病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践」 三輪書店 2017年

【参考書】

長崎重信 監 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学（第3版）」 メジカルビュー社 2021年

山内俊雄 他 編 「精神・心理機能評価ハンドブック」 中山書店 2015年

【備考】

実際に各種検査に取り組む。

【学修の準備】

「評価学実習（精神領域）」と連動して授業を行うので、授業時は両科目の資料を準備すること。

そのために事前学修と事後学修の探索・学修にそれぞれ80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

児玉壮志（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している